事業区分　青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業

事業名　リトリートキャンプ in ASO

[主　催] 国立阿蘇青少年交流の家
[共　催] 熊本県教育委員会
[後　援] 鹿児島県教育委員会　阿蘇市教育委員会
[期　日] 令和７年８月６日（水）～７日（木）　【１泊２日】
[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家
[参 加 者] 17 名（大学生５名、現職教員 12 名）
[担当職員] 交流の家職員３名

1　趣　旨

教師は多忙な日々の中で、悩みを語り合ったり、自らを見つめ直したりする時間をもつことが難しく、特に若手教師は孤立感や不安を抱える傾向が高い。

そこで、本事業では、自然に囲まれた静かな環境＜ASO＞にて、同世代の教師が語り合い、野外活動やワークショップ等を通じながら心身を整える時間を提供する。日常を離れて自分を取り戻し、明日への一歩を踏み出す力を育むことを目指す。

2　目　標

（１） 実施後のアンケートで、参加者の 80%以上が「他の参加者と活動・交流しながら日頃の疲れを癒やし、これからを前向きに頑張ろうという気持ちになった」と回答する。
（２）実施後のアンケートで、参加者の 80%以上が「野外活動やワークショップを通じて、他の教師と協力して課題を解決する実践力が向上した」と回答する。
（３）実施後のアンケートで、参加者の 80%以上が「このキャンプに参加したことで、今後も教師としてのキャリアアップやその継続を目指す意欲が高まった」と回答する。

3　事業展開

(1) 研修プログラム

８月６日(水)

9：30　受付
10：00　開会式・入所オリエンテーション
10：50　活動１ アイスブレイク
11：10　活動２ オリエンテーリング(谷越え)
※活動中に各自で昼食
15：00　活動３ ワークショップ「自律的な学習者を育てる授業改善ワークショップ」
講師：熊本大学大学院教育学研究科　前田康裕　特任教授
17：15　活動４ 野外調理研修
※夕食・懇親会を含む
21：00　入浴
22：00　就寝準備
22：30　消灯



８月７日(木)

6：30　起床
7：30　朝食
8：40　活動５ チームビルディング研修
12：00　昼食
13：00　活動６ ワークショップ「教職の特徴から教師の挑戦と学びを支えてくれる要素について考える」
講師：鹿児島大学教育学部　高谷哲也　准教授(オンライン)
ファシリテーター：鹿児島市立東桜島中学校　立石浩也　教諭
15：30　閉会式・アンケート記入
16：00　解散

4　評価、成果と課題

(1) 評価

＜対象＞参加者 17 名（大学生 5 ・現職教員 12）　　2025.8.7 全活動プログラム終了後実施

※4:とても当てはまる　3:ある程度当てはまる　2:あまり当てはまらない　1:当てはまらない

※記述欄記号：★学生　●現職

① **参加者の８割が他の参加者と活動・交流しながら、これまでの自身の取組を評価したり、認めたりすることができたか。**

設　問	回答	4	3	2	1
他の参加者と活動・交流しながら、日頃の疲れを癒やし、これからを前向きに頑張ろうという気持ちになりましたか。	学生	80.0%	20.0%	0%	0%
	現職	69.2%	30.8%	0%	0%

★現役の教員の話を聞いて、大学生のうちにたくさん学んで経験していこうと思った。●困っていることや悩んでいることを先輩の先生方に相談することができた。●他校種の先生と交流する場がなく、今回は大学生も参加していたので、とても勉強になったと思うし、私もこれからさらに頑張ろうという活力をもらった。

② **参加者の８割が野外活動やワークショップを通じて、他の教師と協力して課題を解決する実践力が向上したか。**

設　問	回答	4	3	2	1
野外活動やワークショップを通じて、他の仲間や同僚と協力して課題を解決する実践力が向上しましたか。	学生	80.0%	0%	20%	0%
	現職	92.3%	7.7%	0%	0%

★オリエンテーリングは楽しめた。教員目線の意見が出てきて面白かった。●特にチームビルディングでは、いろんな活動を通じて相手のよさを知ることができた。●初めて会った人たちと話し合い、考え、意見を出し合って課題を解決することができた。

③ **参加者の８割がこのキャンプに参加したことで、今後も(将来)教師としてのキャリアアップやその継続を目指す意欲が高まったか。**

設　問	回答	4	3	2	1
このキャンプに参加したことで、今後も(将来)教師としてのキャリアアップやその継続を目指す意欲が高まりましたか。	学生	80.0%	20.0%	0%	0%
	現職	61.5%	30.8%	7.7%	0%

★現役の先生や校種が違う先生方とたくさん話せて意欲が高まった。★現職の教師の方と話すことができる貴重な機会で、教師側の意見や体験を聞いて具体的に想像できた。教師になってみたいと思う気持ちが強くなった。●いろいろな刺激を受けて、私も学び続けようと考えるようになった。小・中・高の様々な先生方とかかわることができて勉強になった。

(2) 成果

○　大学生と現職教員が共に活動することで、互いに刺激を受け合い、現職は原点を振り返り、大学生は将来像を描くことができた。教師としての生き方を見直す貴重な機会となった。

○　熊本県内にとどまらず、他県からも参加があり、多様な背景をもつ教職志望者や現職が交流することで、より広い視野で学び合う機会となった。

○　熊本県教育委員会の支援を受け、熊本大学や鹿児島大学から講師を迎えるなど、関係機関と連携を図ったことも大きな成果であった。こうした協力体制により、事業の質が高まり、参加者にとって学びの幅が広がった。

(3) 課題

○　日程設定に課題があり、県内外の教育関連イベントと重なったため参加者が集まりにくかった。年初の段階で実施予定を告知しておけば、参加調整がしやすくなったと考えられる。

○　日程に余裕がなく、スケジュールにバッファーがなかったため、参加者や運営側の負担が大きくなった。二日目は午前中で終了するなど、柔軟な日程設計も検討の余地がある。